

# 四半期報告書

(第143期第2四半期)

自 平成26年7月1日

至 平成26年9月30日

東京インキ株式会社

(E00904)

第143期第2四半期（自平成26年7月1日 至平成26年9月30日）

# 四半期報告書

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

東京インキ株式会社

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	21

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月11日
【四半期会計期間】	第143期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	東京インキ株式会社
【英訳名】	TOKYO PRINTING INK MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大橋 淳 男
【本店の所在の場所】	東京都北区王子一丁目12番4号 TIC王子ビル
【電話番号】	03(5902)7651
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部門理財部長 佐藤 健 二
【最寄りの連絡場所】	東京都北区王子一丁目12番4号 TIC王子ビル
【電話番号】	03(5902)7652
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部門理財部長 佐藤 健 二
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所  (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次	第142期 第2四半期連結累計期間	第143期 第2四半期連結累計期間	第142期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	22,666	22,982	47,819
経常利益 (百万円)	239	100	691
四半期(当期)純利益 (百万円)	179	60	527
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	363	480	773
純資産額 (百万円)	19,868	20,982	20,149
総資産額 (百万円)	44,611	46,217	46,094
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	6.65	2.25	19.48
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	43.9	45.0	43.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	233	254	1,959
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△479	△809	△1,191
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	92	162	△659
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	1,266	1,146	1,544

回次	第142期 第2四半期連結会計期間	第143期 第2四半期連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.15	0.01

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）におけるわが国の経済は、消費増税による個人消費の鈍化、輸入価格の上昇、また海外景気の減速感が強まり、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、新製品の拡販および更なるコストダウンの推進等に引き続き努めてまいりましたが、厳しい状況で推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が229億8千2百万円で前年同四半期比3億1千6百万円の増収（1.4%増）となりましたが、利益面では、営業損失が3千5百万円（前年同四半期は5千3百万円の営業利益）、経常利益は1億円で前年同四半期比1億3千9百万円の減益（58.3%減）、四半期純利益は6千万円で1億1千9百万円の減益（66.2%減）と厳しい結果となりました。

次にセグメント別に概況をご報告いたします。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を変更しております。セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

#### （インキ事業）

オフセットインキは、市場の縮小化が継続する中、新製品の展開とともに拡販に努めた結果、数量および売上高は前年同四半期並みを維持いたしました。

グラビアインキは、特に食品包材向けに拡販に努めてまいりましたが、数量および売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

印刷用材料は、オフセットインキと同様に市場が縮小する中、売上維持に努めましたが、売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

印刷機械は、売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

この結果、インキ事業の売上高は72億5千2百万円となり前年同四半期比7億6千万円の減収(9.5%減)、セグメント利益は原材料価格高騰の転嫁が進まず、5千4百万円で前年同四半期比2億1千7百万円の減益(80.0%減)となりました。

#### (化成品事業)

合成樹脂用着色剤は、自動車用途向けおよび包装用途向けが堅調に推移し、数量および売上高は前年同四半期に比べ増加いたしました。

合成樹脂成形材料は、自動車用途向けの受託が減少し、数量および売上高は前年同四半期に比べ減少いたしました。

この結果、化成品事業の売上高は103億5百万円となり前年同四半期比6千7百万円の増収(0.7%増)、セグメント利益は売上構成の変化により、6億4千5百万円で前年同四半期比2億8千1百万円の増益(77.2%増)となりました。

#### (加工品事業)

防災・減災向け土木資材および水処理用途向けの販売が順調に推移し、売上高は前年同四半期に比べ大幅に増加いたしました。

この結果、加工品事業の売上高は52億8千9百万円となり前年同四半期比10億3千4百万円の増収(24.3%増)となりましたが、利益面では、原材料価格の高騰および市場の競争の激化、また新規設備の正常稼働の遅れ等が影響し、セグメント損失は4千6百万円(前年同四半期は1千1百万円のセグメント利益)となりました。

#### (不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業は、売上高は1億3千6百万円で前年同四半期比2千5百万円の減収(15.7%減)、セグメント利益は5千3百万円で前年同四半期比3千3百万円の減益(38.2%減)となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は462億1千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億2千2百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少3億9千7百万円、受取手形及び売掛金の減少7億3百万円、たな卸資産の増加5億3千2百万円、有形固定資産の減少3億1千万円及び投資有価証券の時価上昇等に伴う増加7億3千7百万円等によるものです。

負債合計は252億3千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億1千万円減少いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少3億8千7百万円、短期借入金の増加7億1千万円、1年内返済予定の長期借入金の減少1億1千6百万円、長期借入金の減少2億4千4百万円、繰延税金負債の増加5億5千9百万円、退職給付に係る負債の減少8億3千万円等によるものです。

純資産の部は209億8千2百万円となり前連結会計年度末に比べ8億3千3百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金の増加4億1千5百万円及びその他の包括利益累計額の増加4億7千1百万円等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は11億4千6百万円で、前連結会計年度末に比べ3億9千7百万円の減少(25.7%減)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億5千4百万円の収入となりました(前年同四半期は、2億3千3百万円の収入)。主な要因は、税金等調整前四半期純利益1億7千8百万円、減価償却費7億5千3百万円が計上され、売上債権の減少6億9千5百万円、仕入債務の減少3億8千2百万円、たな卸資産の増加5億3千6百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、8億9百万円の支出となりました(前年同四半期は、4億7千9百万円の支出)。主な要因は、有形固定資産の取得による支出7億5千3百万円、投資有価証券の売却による収入1億9百万円、貸付けによる支出1億9千2百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億6千2百万円の収入となりました(前年同四半期は、9千2百万円の収入)。主な要因は、短期借入金の純増額7億1千万円、長期借入れによる収入3億4千万円、長期借入金の返済による支出7億1百万円等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6億2千7百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数の著しい増減はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	74,000,000
計	74,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	27,257,587	27,257,587	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は1,000株 であります。
計	27,257,587	27,257,587	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年9月30日	—	27,257,587	—	3,246	—	2,511

## (6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
共同印刷株式会社	東京都文京区小石川四丁目14番12号	2,407	8.83
東京インキ従業員持株会	東京都北区王子一丁目12番4号TIC王子ビル	1,304	4.78
東京インキ取引先持株会	東京都北区王子一丁目12番4号TIC王子ビル	1,289	4.72
有限会社久栄	東京都文京区小石川四丁目16番13号	1,100	4.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（三井住友信託銀行再信託分・三井化学株式会社退職給付信託口）	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,031	3.78
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	956	3.50
日本トラスティ・サービス信託銀行（信託口4）	東京都中央区晴海一丁目8番11号	948	3.47
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	668	2.45
有限会社大葉志	東京都文京区小石川四丁目16番9号	660	2.42
三井住友信託銀行株式会社	東京千代田区丸の内一丁目4番1号	622	2.28
計	—	10,987	40.30

## (7) 【議決権の状況】

### ① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 209,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 26,819,000	26,819	—
単元未満株式	普通株式 229,587	—	—
発行済株式総数	27,257,587	—	—
総株主の議決権	—	26,819	—

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式572株が含まれております。

2 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株 (議決権2個) 含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 東京インキ株式会社	東京都北区王子一丁目 12番4号 TIC王子ビル	209,000	—	209,000	0.7
計	—	209,000	—	209,000	0.7

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株 (議決権1個) あります。

なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式 (その他)」欄に含めております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,624	1,226
受取手形及び売掛金	18,130	17,427
商品及び製品	3,679	4,056
仕掛品	1,247	1,303
原材料及び貯蔵品	1,645	1,745
繰延税金資産	288	254
その他	134	280
貸倒引当金	△64	△55
流動資産合計	26,685	26,238
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,916	6,818
機械装置及び運搬具（純額）	2,556	2,375
工具、器具及び備品（純額）	91	95
土地	3,497	3,497
リース資産（純額）	609	566
建設仮勘定	24	33
有形固定資産合計	13,696	13,385
無形固定資産		
リース資産	2	7
その他	87	95
無形固定資産合計	89	102
投資その他の資産		
投資有価証券	5,234	5,971
繰延税金資産	155	179
その他	399	505
貸倒引当金	△166	△166
投資その他の資産合計	5,622	6,490
固定資産合計	19,409	19,978
資産合計	46,094	46,217

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,112	11,725
短期借入金	3,890	4,600
1年内返済予定の長期借入金	1,394	1,278
リース債務	199	200
未払法人税等	169	101
賞与引当金	430	427
未払消費税等	34	110
未払費用	760	748
その他	709	343
流動負債合計	19,700	19,535
固定負債		
長期借入金	2,616	2,371
リース債務	437	399
繰延税金負債	497	1,057
役員退職慰労引当金	249	246
退職給付に係る負債	2,218	1,388
その他	224	235
固定負債合計	6,244	5,699
負債合計	25,945	25,234
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,246	3,246
資本剰余金	2,511	2,511
利益剰余金	13,734	14,149
自己株式	△52	△53
株主資本合計	19,439	19,854
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	549	1,047
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	△50	△71
退職給付に係る調整累計額	△46	△52
その他の包括利益累計額合計	452	923
少数株主持分	257	204
純資産合計	20,149	20,982
負債純資産合計	46,094	46,217

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	22,666	22,982
売上原価	19,855	20,160
売上総利益	2,810	2,821
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	756	783
賞与	87	99
福利厚生費	167	175
減価償却費	122	126
賞与引当金繰入額	178	180
退職給付費用	94	62
役員退職慰労引当金繰入額	12	22
通信交通費	161	172
荷造及び発送費	526	527
その他	647	706
販売費及び一般管理費合計	2,756	2,857
営業利益又は営業損失(△)	53	△35
営業外収益		
受取利息	19	14
受取配当金	73	68
貸倒引当金戻入額	81	7
出資分配金	40	38
その他	25	39
営業外収益合計	239	168
営業外費用		
支払利息	35	28
その他	18	3
営業外費用合計	53	32
経常利益	239	100
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	80	96
受取保険金	26	—
特別利益合計	108	96
特別損失		
固定資産除売却損	15	17
投資有価証券評価損	0	—
災害による損失	—	※1 0
その他	1	—
特別損失合計	16	18
税金等調整前四半期純利益	331	178
法人税、住民税及び事業税	33	93
法人税等調整額	131	75
法人税等合計	165	169
少数株主損益調整前四半期純利益	165	9
少数株主損失(△)	△14	△51
四半期純利益	179	60

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	165	9
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	155	497
繰延ヘッジ損益	△18	1
為替換算調整勘定	59	△21
退職給付に係る調整額	—	△6
その他の包括利益合計	197	471
四半期包括利益	363	480
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	377	532
少数株主に係る四半期包括利益	△14	△51



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	331	178
減価償却費	767	753
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△166	△7
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△75	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	△163
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△8	△3
受取利息及び受取配当金	△92	△82
支払利息	35	28
有形固定資産処分損益 (△は益)	14	17
災害損失	—	0
受取保険金	△26	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△80	△96
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	—
売上債権の増減額 (△は増加)	2,566	695
たな卸資産の増減額 (△は増加)	120	△536
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,011	△382
その他	△281	△26
小計	91	374
利息及び配当金の受取額	102	75
利息の支払額	△34	△27
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	46	△163
保険金の受取額	58	—
災害に伴う支払額	—	△4
瑕疵担保責任履行に伴う支出額	△32	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	233	254
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△75	△60
定期預金の払戻による収入	75	60
有形固定資産の取得による支出	△461	△753
有形固定資産の売却による収入	2	0
無形固定資産の取得による支出	△21	△0
投資有価証券の取得による支出	△4	△5
投資有価証券の売却による収入	93	109
子会社株式の取得による支出	△20	—
貸付けによる支出	△106	△192
貸付金の回収による収入	14	2
その他	24	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△479	△809

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	710	710
長期借入れによる収入	360	340
長期借入金の返済による支出	△779	△701
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△113	△103
配当金の支払額	△81	△81
少数株主への配当金の支払額	△1	△0
その他	△1	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	92	162
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△164	△397
現金及び現金同等物の期首残高	1,430	1,544
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 1,266	※1 1,146

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)  
該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が676百万円減少し、利益剰余金が435百万円増加しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

### 1 保証債務

リース取引に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成26年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)	
共立印刷株	15百万円	共立印刷株	11百万円
計	15百万円	計	11百万円

(四半期連結損益計算書関係)

### ※1 災害による損失

平成26年9月16日に当社羽生工場において発生した火災に伴い、当第2四半期連結累計期間に確定した損失額を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	1,361百万円	1,226百万円
預入期間が3ヶ月超の定期預金	△95	△80
現金及び現金同等物	1,266	1,146

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	81	3	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	81	3	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	81	3	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	81	3	平成26年9月30日	平成26年12月2日	利益剰余金

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	インキ事業	化成品事業	加工品事業	不動産賃貸事業	計	
売上高						
外部顧客への売上高	8,012	10,237	4,255	161	22,666	22,666
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	16	0	—	16	16
計	8,012	10,253	4,255	161	22,683	22,683
セグメント利益	272	364	11	86	734	734

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差額調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	734
全社費用(注)	△680
その他の調整額	△0
四半期連結損益計算書の営業利益	53

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	インキ事業	化成品事業	加工品事業	不動産賃貸事業	計	
売上高						
外部顧客への売上高	7,252	10,305	5,289	136	22,982	22,982
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	38	9	—	47	47
計	7,252	10,343	5,298	136	23,030	23,030
セグメント利益又は損失(△)	54	645	△46	53	707	707

(注) 第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を変更しております。なお、セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差額調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	707
全社費用（注）	△741
その他の調整額	△2
四半期連結損益計算書の営業損失	△35

（注） 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に變更しております。

この變更に伴う当第2四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

（金融商品関係）

当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（有価証券関係）

時価のある其他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

其他有価証券

前連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	取得原価 （百万円）	連結貸借対照表 計上額（百万円）	差額 （百万円）
株式	3,440	4,294	853
計	3,440	4,294	853

当第2四半期連結会計期間（平成26年9月30日）

区分	取得原価 （百万円）	四半期連結貸借対照表 計上額（百万円）	差額 （百万円）
株式	3,432	5,032	1,600
計	3,432	5,032	1,600

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	6円65銭	2円25銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	179	60
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	179	60
普通株式の期中平均株式数(千株)	27,062	27,050

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

第143期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)中間配当について、平成26年11月7日開催の取締役会において、平成26年9月30日の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| ① 配当金の総額             | 81,144,045円 |
| ② 1株当たりの金額           | 3円          |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成26年12月2日  |

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月10日

東京インキ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 秋 山 茂 盛 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 橋 本 裕 昭 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京インキ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京インキ株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月11日
【会社名】	東京インキ株式会社
【英訳名】	TOKYO PRINTING INK MFG. CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大橋 淳 男
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	東京都北区王子一丁目12番4号 TIC王子ビル
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 大橋 淳男は、当社の第143期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。